

HPV ワクチンキャッチアップ未接種者の3つのクラスターと

そこから考えられる今後の普及戦略

【概要】

- HPV ワクチンのキャッチアップ接種対象者のうちまだ接種をしていない者の特徴を明らかにするため、キャッチアップ接種が開始してから9か月が経過した2023年1月に未接種者3,790人を対象に調査を実施しました。
- HPV ワクチンの接種意向や接種に関わる心理的要因などを測定しクラスター分析を行った結果、HPV ワクチンキャッチアップ未接種者は「受容クラスター」、「中立クラスター」、「拒否クラスター」の3つに分けることが出来ることになりました。
- 接種意向が高い受容クラスターは全体の約30%を占めており、学生に多い傾向がある一方、接種意向が低い拒否クラスターは全体の約20%を占めており、労働者に多い傾向がありました。中立クラスターは全体の約50%を占めており、職業や世帯年収、居住地別のどの層でも過半数を占めていました。
- 受容クラスターでは接種を受ける人が増えれば自分も接種を受けるという考えが強く見られ、中立クラスターでもある程度認められました。
- これらの研究結果から今後のHPV ワクチンキャッチアップの普及戦略として、まず学生などの受容クラスターの割合が高い集団で接種しやすい機会を提供して接種者を増やし、その次に中立クラスターや他の集団への普及を目指すという方法が効果的な可能性が示唆されました。

東京医科大学公衆衛生学分野の町田征己らは、HPV ワクチンキャッチアップ接種対象者におけるワクチン躊躇の実態を明らかにするために、2023年1月にキャッチアップ接種の未接種者3,790人を対象にインターネット調査を実施しました。その研究成果が2023年4月4日に国際医学雑誌 Vaccine オンライン版で発表されました。

【研究内容の要約】

日本では2022年4月にHPV ワクチンの積極的勧奨が再開され、同時に接種の機会を逃した人へのキャッチアップ接種（※1）が開始されました。キャッチアップ接種ではなるべく多くの対象者に接種を受けてもらうことが重要ですが¹⁾、2022年9月時点でキャッチアップ接種を受けている人は非常に少ないことが明らかになっています²⁾。本研究は、キャッチアップ接種対象者でまだ接種をしていない人の特徴を明らかにすることを目的に行われました。

調査はHPV キャッチアップ接種が開始してから9か月が経過した2023年1月に実施され、キャッチアップ接種対象者で調査時点で接種をまだ受けていない18歳以上の女性3,790

人が参加しました。HPV ワクチンの接種意向や接種意向に関わる代表的な7つの心理的要因（予防接種レディネス（※2））などを測定し、クラスター分析で分類を行い、その分布を社会人口統計学的要因毎に確認しました。

その結果、HPV ワクチンキャッチアップ接種の対象者でまだ接種を受けていない人は3つのタイプに分けることが出来るようになりました。1つ目は、HPV ワクチンに対してポジティブな考えと高い接種意向を持つ「受容クラスター」、2つ目はネガティブな考えと低い接種意向を持つ「拒否クラスター」、3つ目は中立的な考え・接種意向を持つ「中立クラスター」でした。受容クラスターは全体の約30%を占めており、学生などに多い傾向がある一方で、拒否クラスターは全体の約20%を占めており、労働者などに多い傾向がありました。中立クラスターは全体の約50%を占めており、職業や世帯年収、居住地別のどの層でも過半数を占めていました。受容クラスターでは接種を受ける人が増えれば自分も接種を受けるという考え（記述的規範の影響）が強く見られ、中立クラスターでもある程度認められました。

これらの研究結果から今後のHPV ワクチンキャッチアップの普及戦略として、まず学生などの受容クラスターの割合が高い集団で接種しやすい機会を提供して接種者を増やし、その次に記述的規範の影響によって中立クラスターや他の集団への普及を目指すという方法が効果的な可能性が示唆されました。

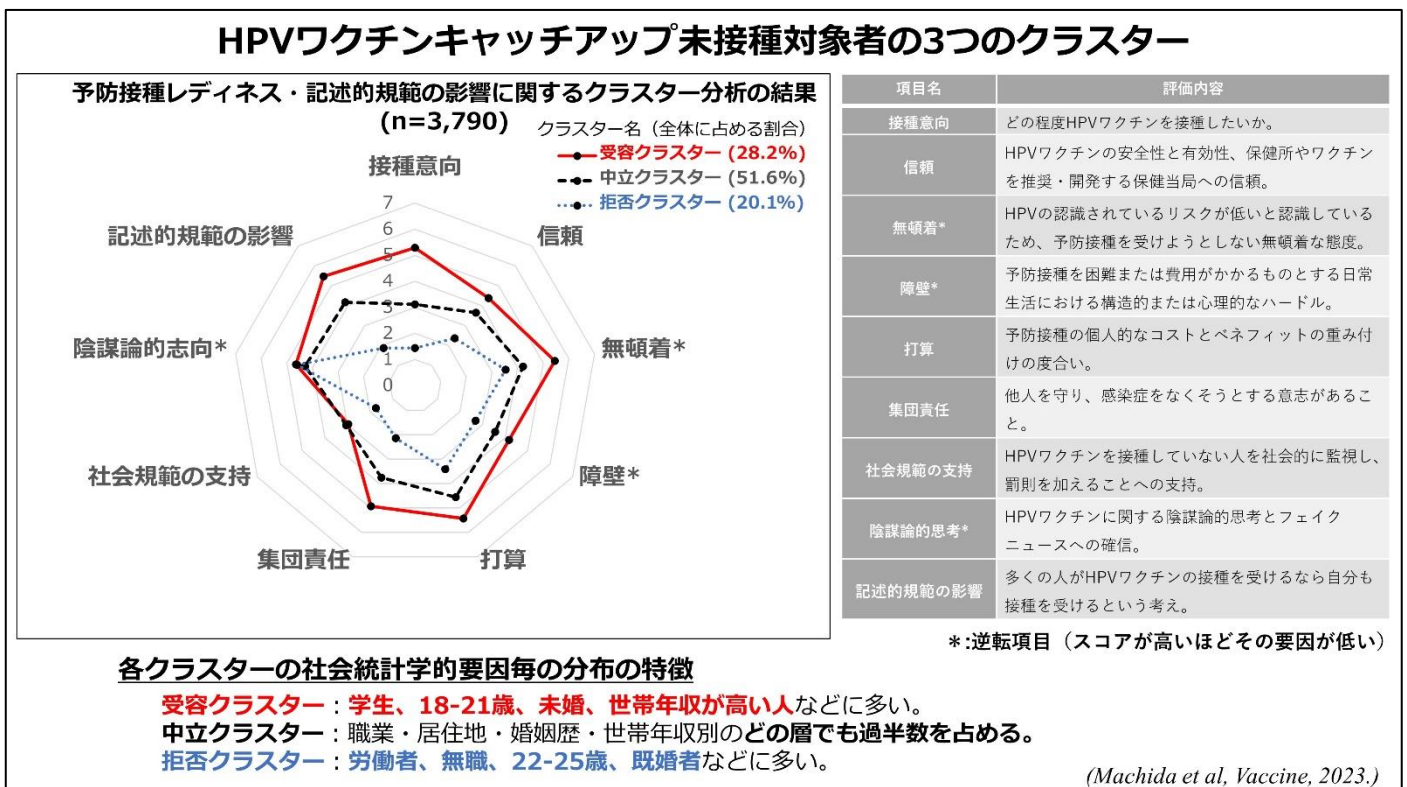


図. 本研究結果の概要

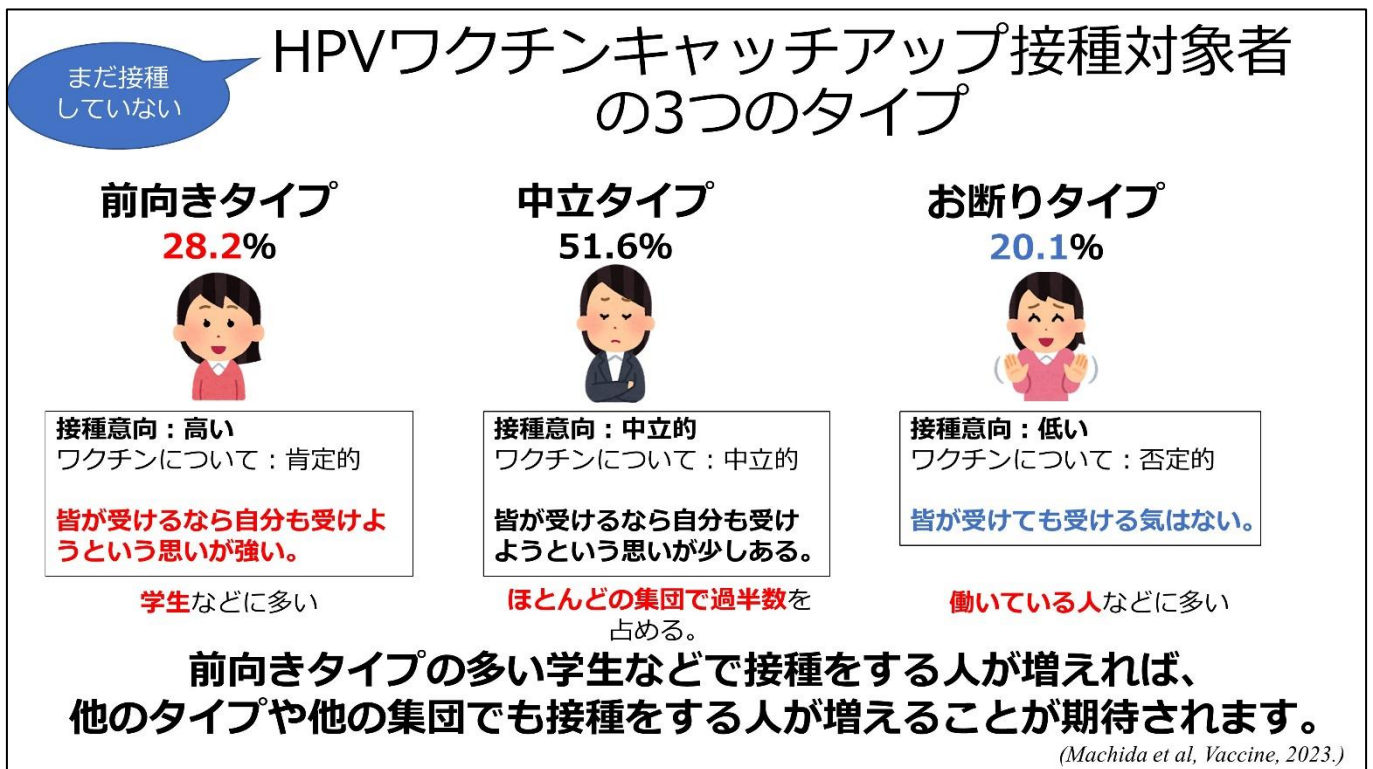


図. 本研究の結果を踏まえた啓発ツールの例

【論文情報】

掲載紙：Vaccine

論文名：Patterns of HPV vaccine hesitancy among catch-up generations in Japan: a descriptive study

著者名：町田 征己、井上 茂

DOI：https://doi.org/10.1016/j.vaccine.2023.03.061（査読済み）

【注釈】

（※1）2023年1月の調査時点において、キャッチアップ接種の対象者は、1）平成9年度生まれ～平成17年度生まれ、2）女性、3）過去にHPVワクチンの接種を合計3回受けていない者、でした。

（※2）予防接種レディネスとは、予防接種の接種意向とそれに影響する7つの心理的要因のことをいいます³⁾。7つの心理的要因は以下のとおりです。①信頼（予防接種の安全性と有効性、保健所、ワクチンを推奨・開発する保健当局への信頼）、②無頓着（感染症のリスクが低いと認識しているため、予防接種を受けようとしなない無頓着な態度）、③障壁（ワクチン接種を困難または費用がかかるものとする日常生活における構造的または心理的なハードル）、④打算（ワクチン接種の個人的なコストとベネフィットの重み付けの度合い）、⑤集団責任（他人を守り、感染症をなくそうとする意志）、⑥社会規範の支持（ワクチンを接種していない人を社会的に監視し、罰則を加えることへの支持）、⑦陰謀論的思考（ワクチン接種に関する陰謀論的思考とフェイクニュースへの確信）。

1. Yagi A, Ueda Y, Nakagawa S, Ikeda S, Kakuda M, Hiramatsu K, et al. Can catch-up vaccinations fill the void left by suspension of the governmental recommendation of HPV vaccine in Japan? *Vaccines (Basel)* 2022;10:1455.
2. 厚生労働省. HPV ワクチンの実施状況について.
<https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/001039949.pdf>. [2023年3月29日アクセス可能].
3. Geiger M, Rees F, Lilleholt L, Santana AP, Zettler I, Wilhelm O, et al. Measuring the 7Cs of vaccination readiness. *Eur J Psychol Assess* 2022;38:261–9.

【問い合わせ先】

東京医科大学 公衆衛生学分野 町田 征己、井上 茂

E-mail: tmuphic.2020@gmail.com